

7月

新着図書

オパールのは

著者名： 桐野夏生
出版社： 中央公論新社

時代に先駆けてピル解禁を訴えていた女は——突然、姿を消した。謎多き女をめぐる証言から、世の“理不尽”を抉りだす圧巻の傑作長篇。

こちら横浜ポートシティ不動産

著者名： 右手 盛賢富
出版社： 日刊現代

勤め先の倒産で、横浜市中区にある横浜ポートシティ不動産に勤めはじめた浜野マリ。けれど勤め先の社長は一見なにも仕事をしていないようで、夕方から社内でお酒を飲みはじめるといふ変わった人物。1週間くらい会社に顔を出さないこともしばしばだ。しかしそんな社長のもとに様々な人々が訪れ、社長と話をしたあとは笑顔になって帰っていくのを、マリは不思議に思っていた。

まいまいつぶろ 御庭番耳目抄 (おにわばんじもくしやう)

著者名： 村木 嵐
出版社： 幻冬舎

「二間先の音まで聞こえるが、
上様の言葉だけ聞き取れない。
せめて、お心は解きたい——。」
青名半四郎。又の名を、万里。
徳川吉宗・家重の将軍二代に仕えた御庭番は、
江戸城の深奥で、何を見、何を聞いたのか？
隠密秘話に胸熱くなる、『まいまいつぶろ』完結編。

完本 神坐す山の物語 (かみいますやまのものがたり)

著者名： 浅田次郎
出版社： 双葉社

奥多摩の、太古から神を祀ってきた霊山・御嶽山の上にある村。そこにある神官屋敷は浅田氏の実家である。彼が少年だったころ、美しい伯母から聞かされた怪談めいた夜語り。それは怖いけれど、美しくも哀しく、どれも引き込まれるものばかりだった。これら神主の家に伝わる話を元に脚色して書かれた短編を編み直し、単行本未収録作品「神上りましし諸人の話」（あとがきにかえて）と、書き下ろし作品「山揺らぐ」を加え、完本とした永久保存の決定版！

鬼の哭く里

著者名： 中山七里
出版社： 光文社

鬼が哭(な)く夜は死人が出る——まさか、令和になってまで終戦直後、中国地方の寒村で起きた惨殺事件。姿を消した犯人の呪いにより、今も犠牲者が出ているというが……。驚愕の呪いの真相とは!? “どんでん返しの帝王”が因習と伝奇の本格推理を現代に甦らせる！ 圧巻の結末(ラスト)!!

変な家2 ～11の間取り図～

著者名： 雨穴
出版社： 飛鳥新社

あなたは、この「11の間取り」の謎が解けますか？前作に続き、フリーライターの筆者と設計士・栗原のコンビが不可解な間取りの謎に挑む。
1「行先のない廊下」2「闇をはぐくむ家」
3「林の中の水車小屋」4「ネズミ捕りの家」
5「そこにあった事故物件」6「再生の館」
7「おじさんの家」8「部屋をつなぐ糸電話」
9「殺人現場へ向かう足音」10「逃げられないアパート」11「一度だけ現れた部屋」後編「栗原の推理」すべての謎が一つにつながったとき、きっとあなたは戦慄する！

アルプス席の母

著者名： 早見 和真
出版社： 小学館

まったく新しい高校野球小説が、開幕する。秋山菜々子は、神奈川で看護師をしながら一人息子の航太郎を育てていた。湘南のシニアリーグで活躍する航太郎には関東一円からスカウトが来ていたが、選び取ったのはとある大阪の新興校だった。声のかわらなかった甲子園常連校を倒すことを夢見て。息子とともに、菜々子もまた大阪に拠点を移すことを決意する。不慣れな土地での暮らし、厳しい父母会の掟、激瘦せしていく息子。果たしてふたりの夢は叶うのか!?

ユニクロ

著者名： 杉本 貴司
出版社： 日経BP

「ユニクロはどうやってここから生まれたのか。地方のさびれた商店街の紳士服店は、なぜ世界的なアパレル企業になりえたのか。本書では、その謎をひもといていくことを目的とする。では、その歩みから何が見えてくるのだろうか。現代を生きる我々に何を教えてくれるのか。私が見つけたのは『希望』である。この国に存在する名もなき企業や、そこで働く人たちにとって希望になるであろう物語である。」本文より